

野菜の需給・価格動向レポート(平成29年3月13日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

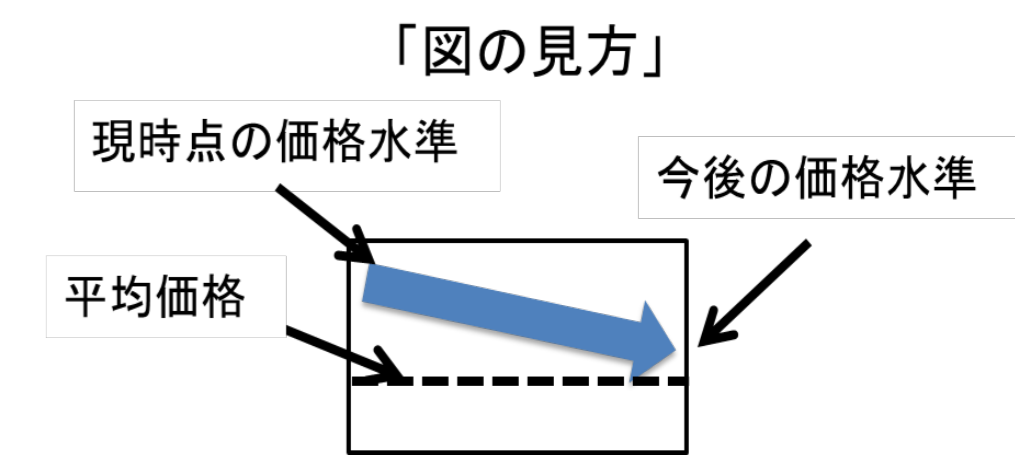
種類	2月の価格情報					3月 2月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格			(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格				
		上旬	中旬	下旬					
キャベツ	96.86	117	116	114	96.86	-7.207t (97%)	愛知(61)、千葉(21)	平均価格 	愛知産は、1月中旬以降の気温の低下及び干ばつの影響により生育遅れとなっていることから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は適度な降雨や気温の上昇により生育が回復し、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は概ね順調で肥大も良好であることから、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は気温の上昇により平年より多めの出荷の見込み。
	92.10	119	120	114	92.10	-2.730t (91%)			
たまねぎ	83.77	82	86	90	83.77	-6.004t (103%)	北海道(68)、静岡(15)		北海道産は、貯蔵物からの出荷となっており、出荷終盤であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、12月の気温高及び適度な降雨により前進出荷となった影響により、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
	83.77	79	80	80	83.77	-2.750t (129%)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	262	323	309	252.99	-1.303t (89%)	千葉(48)、埼玉(24)、茨城(10)、群馬(7)		千葉産は、年明け以降の低温の影響による葉先の枯れが散見され、また、強風による折損等の品質の低下もみられることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。埼玉産は、干ばつによる葉先の傷みなどの品質の低下はみられるが、好天が続いていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	473.04	492	529	550	473.04	-122t (80%)			
はくさい	64.18	80	101	95	64.18	-3.283t (85%)	茨城(55)、兵庫(23)		茨城産は、前進出荷の影響により残量が少なく、出荷終盤で品質の低下も見られることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、現在冷蔵物の出荷となっており、生育は順調であったものの、昨年9月の定植期の天候不順により定植できなかったほ場があることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
	68.70	92	113	104	68.70	-1.814t (89%)			
ほうれんそう	338.43	422	419	382	338.43	-831t (119%)	茨城(33)、群馬(22)、埼玉(17)、千葉(15)		茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、天候に恵まれ適度な降雨もあることから、生育は順調で、引き続き平年より多めの出荷の見込み。埼玉産は、葉の黄変や病害の発生により歩留まりが低いことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
	375.38	527	503	419	375.38	-329t (104%)			
レタス (結球)	233.85	230	206	192	189.66	-2.729t (107%)	茨城(41)、静岡(21)、香川(7)、兵庫(6)		茨城産は、天候に恵まれ、日照も多く前進出荷傾向であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。静岡産は、天候に恵まれ生育は順調であるものの、12月の気温高による前進出荷の影響から、引き続き平年よりやや少なめの見込み。香川産は、1月中旬以降の低温及び干ばつの影響はあるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	226.75	227	205	200	193.43	-699t (100%)			
きゅうり	370.98	321	298	273	266.63	-2.785t (113%)	群馬(20)、宮崎(20)、千葉(17)、埼玉(15)		群馬産は、天候に恵まれ生育は順調であり、作付面積も増加していることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。宮崎産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、現在平年より多めの出荷となっているものの、3月に入り曇雨天の日が増えたことから、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調で最近では適度な降雨もあり、前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
	350.33	312	291	271	254.91	-931t (113%)			
トマト (大玉)	349.23	382	364	331	356.77	-2.662t (113%)	熊本(30)、栃木(23)、愛知(11)		熊本産は、順調な着果となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、やや小玉傾向ではあるが、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、着色の進みが早く小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。
	326.61	368	352	335	337.87	-900t (109%)			
なす	389.03	424	423	429	347.77	-662t (87%)	高知(59)、福岡(20)		高知産は、天候に恵まれ生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	397.74	407	406	404	330.95	-281t (92%)			
ピーマン	578.80	605	592	531	578.80	-758t (134%)	茨城(37)、宮崎(20)、高知(17)		茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、天候に恵まれ気温も高く生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。高知産は、根張りが弱く、初期生育の遅れはみられるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	565.30	565	562	505	565.30	-315t (123%)			
だいこん	79.03	82	87	87	79.03	-4.059t (83%)	神奈川(57)、千葉(35)		神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、作りの切り替えによる端境期となっていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、天候に恵まれ生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。
	80.47	72	72	83	80.47	-1.823t (79%)			
にんじん	111.16	136	144	157	111.16	-2.162t (77%)	千葉(57)、徳島(24)		千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で太りも良いものの、播種期の台風等による苗の流亡等の影響から、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。徳島産は、天候に恵まれ気温も高めに推移していることから生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。
	109.97	126	129	134	109.97	-601t (75%)			

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

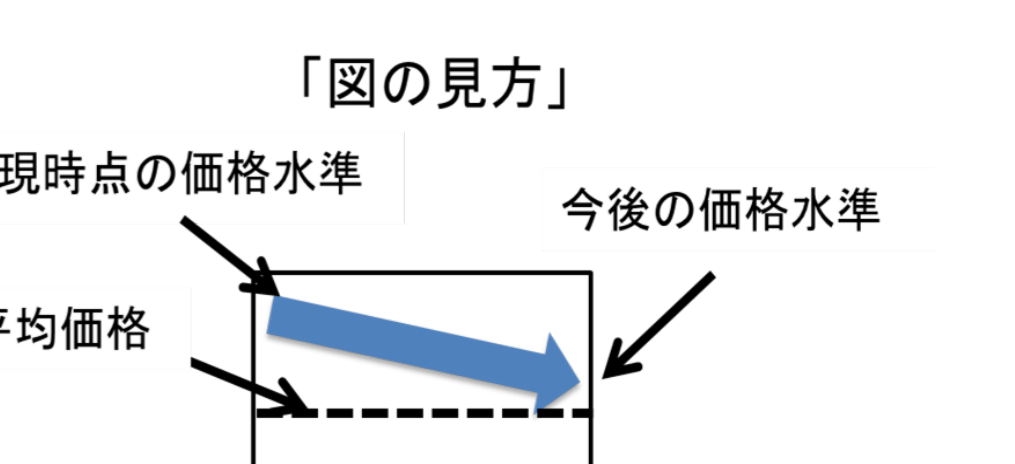
種類	種 類	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	2月の価格情報			3月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	2月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し
			(参考) 指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額						
			上旬	中旬	下旬				
いも類	さといも	228.85	210 (92%)	238 (104%)	238 (104%)	228.85	・192t (140%)	埼玉(42), 千葉(29)	→
		219.65	228 (104%)	245 (112%)	240 (109%)	219.65	・63t (171%)	愛媛(52), 宮崎(23)	
	ばれいしょ	96.99	204 (210%)	209 (215%)	213 (220%)	96.99	・2.465t (80%)	北海道(67), 鹿児島(31)	→
		96.99	193 (199%)	213 (220%)	209 (215%)	96.99	・986t (77%)	北海道(53), 鹿児島(46)	



注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	種 類	(参考) 過去5カ年平均価格	2月の価格情報			3月 (参考) 過去5カ年平均価格	2月下旬の東京及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	生育及び価格の3月下旬までの見通し
			(参考) 東京・大阪市場の旬別価格						
			上旬	中旬	下旬				
洋菜類	ブロッコリー	356.04	385 (108%)	360 (101%)	261 (73%)	315.79	・871t (160%)	愛知(44), 香川(22), 埼玉(7)	→
		367.08	423 (115%)	406 (111%)	300 (82%)	336.11	・215t (123%)	徳島(25), 香川(17), 長崎(13)	
葉菜類	こまつな	371.32	348 (94%)	350 (94%)	314 (85%)	278.28	・260t (120%)	茨城(40), 埼玉(34), 東京(13)	→
		358.21	365 (102%)	386 (108%)	312 (87%)	252.78	・96t (129%)	福岡(77), 茨城(7)	
根菜類	かぶ	143.42	153 (107%)	155 (108%)	148 (103%)	142.27	・295t (94%)	千葉(88)	→
		140.01	167 (119%)	173 (124%)	172 (123%)	158.05	・40t (77%)	徳島(59), 石川(22)	



注：1 平均価格は、過去5カ年(平成24～28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成27年実績である。

2 野菜の輸出入動向 - 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について -

貿易統計によると、平成29年1月の生鮮野菜の輸入量は、6万8千トン(前年同月比130%)と、昨年の7月以降、7カ月連続で前年を上回って推移している。また、輸入量の多い加工野菜も1万6千2百トン(同120%)と、昨年の6月以降、8カ月連続で増加しており、野菜全体では、23万トン(同123%)と前年を大幅に上回った。

このうち、中国産の輸入数量は合計で12万5千トン(同124%)で、輸入量の54%を占め、5カ月連続で50%を上回った。

なお、主な生鮮野菜のうち、特にばれいしょの輸入量が大幅に増加しているのは、例年、加工業務用の輸入は2月から本格的に開始されるが、昨年の天候不順の影響による不足感から、前倒しでの輸入になったものである。

一方、1月の輸出量は、生鮮野菜が、780トン(同19%)と前年を大幅に下回った。また、加工野菜も622トン(同88%)と、かなり大きく減少したことから、野菜全体では1,402トン(同30%)と、前年を大幅に下回った。このような中で、生鮮いちごは大幅に増加(同194%)しており、特に平成25年以降、香港向けの輸出量が毎年大幅な増加をみせている。

1. 野菜の輸入数量

(単位: トン, %)

区分	平成27年		平成28年		平成29年1月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比
生鮮野菜	826,845	93	862,416	104	68,165	130
加工野菜	1,752,337	98	1,768,892	101	161,655	120
野菜合計	2,579,182	97	2,631,308	102	229,820	123
うち中国産野菜合計	1,355,491	96	1,365,785	101	125,004	124
中国産シェア	53		52		54	

1-1. 主な生鮮野菜の輸入先(平成29年1月)

(単位: トン, %)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	前年比	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	19,560	129	中国	18,619	米国	892	タイ	48
かぼちゃ	11,935	97	メキシコ	8,309	ニュージーランド	3,626		
ばれいしょ	5,337	88,950	米国	5,284	中国	53		
にんじん	5,060	201	中国	4,738	ベトナム	179	豪州	114
ねぎ	4,302	98	中国	4,302				
ごぼう	4,168	112	中国	4,156	台湾	12		
結球レタス	2,401	109	台湾	2,284	米国	116		
キャベツ	2,346	221	中国	1,561	ベトナム	664	豪州	58

1-2. 同輸入先(平成28年1月)

(単位: トン)

区分	輸入合計		1位		2位		3位	
	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	15,183	中国	14,579	米国	532	タイ		72
かぼちゃ	12,295	メキシコ	9,881	ニュージーランド	2,414			
ばれいしょ	6	中国	6					
にんじん	2,519	中国	2,477	台湾	24	豪州		11
ねぎ	4,403	中国	4,403					
ごぼう	3,721	中国	3,708	台湾	13			
結球レタス	2,209	台湾	2,171	米国	38			
キャベツ	1,063	中国	914	韓国	149			

2. 野菜の輸出数量

(単位: トン, %)

区分	平成27年		平成28年		平成29年1月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比
生鮮野菜	22,992	42	31,867	139	780	19
加工野菜	9,510	83	11,101	117	622	88
野菜合計	32,502	54	42,968	132	1,402	30

2-1. 主な生鮮野菜の輸出先(平成29年1月)

(単位: トン, %)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	前年比	前年比	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	245	54	台湾	176	米国	49	シンガポール	18
いちご	152	194	香港	121	台湾	23	タイ	3
たまねぎ及びシャロット	124	4	韓国	123	香港	1		

2-2. 同輸出先(平成28年1月)

(単位: トン)

区分	輸出合計		1位		2位		3位	
	国名	数量	国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	457	台湾	210	米国	164	シンガポール		80
いちご	78	香港	63	台湾	12	タイ		1
たまねぎ及びシャロット	3,209	韓国	2,475	台湾	557	オランダ		120

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」） ※四捨五入の関係上、合計と国別の数字は一致しないことがあります。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。
 ※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。